

講師・支部長奮闘記

藤樹先生の教えを受けて

攝友会高島支部長 中西 攝 勝



滋賀県北西部の高島市にあり、4つの分会を構成して活動している攝友会高島支部です。前回発行された、会報「しらさぎ」50号の「しらさぎ史跡探訪の旅」で詳しく紹介されましたよう

に、高島市は日本陽明学の祖、中江藤樹先生の生誕の地であり、ここに私たちの支部があります。前回の会報で広く白鷺連合会の会員様に土地柄を知って頂いたことを嬉しく思います。

高島支部の誕生は比較的古く、昭和50年代の初め大阪より転居されて来られた、故角田蘆孝先生のお陰で湖西に詩吟の輪が広がり高島支部が誕生しました。高島支部でも会員の減少と高齢化が進んでいますが、嬉しいことに今年久し振りに新入会員があり、この他にも一度詩吟を習ってみたいという人からの問合せもあり喜んでいます。ただ、悩みもあって、広い高島市に会員が点在して居住されているため、練習会場まで遠くて時間を要します。交通の便も良くありません。このような状況もあり、個々の分会での活動が精一杯で、支部全体の交流は普段は全く無い状況です。年1回の高島支部錬成大会と、攝友会指導部の先生に来て頂き開催される「楽生塾」で全員が出席して勉強し交流する程度です。

今私が気にかけていることは、高島支部の発足時から、会員の幸福と詩吟の発展と上達、また会員同士の友情を深めることを目標に、支部会員揃って伝統的に新年の藤樹神社で初詣と奉納吟を行っていましたが、数年前の大雪の年に中断し、続かなくなりました。

故人となられ、或いは超高齢ながらも元気に詩吟を続けられている歴代の先輩の支部長の遺志を受け継ぎ、初心に帰り心新たに新春奉納吟を復活していきたいと考えています。

そして中江藤樹先生の教えの「五事を正す」を心に、会員お互いに、いつまでも仲良く詩吟に親しみ、健康で過ごしていきたいものです。

会員増強の一考察

岳豊会豊岡支部長 岸 岳 月



岳豊会は、兵庫県北部に位置した豊岡市にあり、豊岡支部、日高支部、出石但東支部の3支部で構成されています。

豊岡支部には14の分会(教室)が置かれ、会員数は97人、日高支部は23分会で会員数は122人、出石但東支部は3教室で会員数は26人であります。

私の所属する豊岡支部は、十数年前まで分会数、会員数とも一番多く事業活動も積極的に行っていましたが、会員の高齢化に伴う健康面でやむなく退会される方が増えてきました。このような状況から一昨年支部内に「会員増員検討委員会」を設置し、指導部の先生や各分会長にも委員をお願いし、支部を上げて会員の増強に取り組むことになりました。先ず初めは近所の方、知人に練習への参加をお願いすることになり、勧誘をしましたが、目に見える成果は中々上がりませんでした。しかしながら、昨年あたりから会員にも増員の意識が定着し、年間を通じて勧誘運動を継続していただきましたところ、徐々に入会者が増えてきました。本年になりましたから、指導者の先生にお骨折りをいただき、6月に1分会(会員数3人)、更に9月には1分会(会員数2人)が誕生することになりました。当支部にとって数年ぶりに分会が誕生する快挙で本当に喜んでいます。2分会とも更に分会員が増え充実していくであろうと大いに期待をしています。不安を感じながら設置した「委員会」でありましたが、今では設置して本当に良かったと思っています。

当支部内には、まだ指導をされていない師範

代・準師範や師範の有資格者が沢山おられます。この方々には、一日も早く新教室を立ち上げていただきたいと思います。「あの人が分会をもっていないのに、私が先に分会を持つなんて」とよく聞きますが、そんな心配や遠慮は要らないと思います。勇気をもって近所の方や知人に声をかけてみましょう。詩吟をしたいと思われている方はきっといるはずです。以上、私が日頃感じていることを述べましたが、会員増強の一助になれば幸甚です。

朗詠を通して真淵の心、文化に触れる

浜松鷺長会副会長 森 下 報 薫



浜松鷺長会は、飯田報信会長、吉田鷺航会主を頂点に6支部で構成されています。

6支部にそれぞれ支部講師、支部長がいて吟詠指導は講師、支部運営は支部長が担当しています。各講師は吉田講師の指導で講師会を隔月に開催して吟詠講習で吟力の向上に努めています。また講師とは別に指導者講習会を各支部の分会指導者を対象に吉田鷺航会主が隔月に実施しています。

そのほかに女性部、青壮年部、清吟部の組織があり独自の活動をしています。又青少年育成委員会、広報委員会の2つの委員会があり会員増強に取り組んでいます。

さて、組織的には確固たるものが確立していると思いますが、ご多分に漏れず年々会員の減少に歯止めがかかりません。声掛けをしたりチラシ、ポスターで呼び掛けても簡単に加入してくれるほど甘くはないのが現実。

会員勧奨のキーワードに地元浜松の文学の中で漢詩や和歌をテーマにすることはできないか会長から提案があり、広報委員会、役員会で地元浜松から出た国学者の賀茂真淵翁をターゲットにしました。たくさんの和歌を残していますのでこれを声に出して詠う（和歌を詠おう会）の参加案内を実行することにしました。

秋の夜のほがらほがらと天の原

照る月影に雁鳴き渡る

遠つ編みあらら浜松本ごとに

よる波みつつ涼みとるかも

この和歌を一般の人を対象に朗詠を通して真淵翁の心、文化に触れる、声を出して朗詠をして

ストレス発散する、そこから発展して会員増強に繋げればと心ワクワクとしています。何事もやってみなければ結果は判りません。今は行動するのみです。鷺長会すべての講師が参画できるわけではありませんが奮闘努力していい結果が出せるよう頑張る所存です。

背中を押されて

志舟会 東粉浜支部長 尾 上 紅 篁



新米師範の私が、東明未来塾の1期生として受講、教える事は学ぶことと、教室を持って気が付けばもう4年目になりました。お付き合いで入会してくれた友人も、ご主人が病気されて

大変な中、お稽古には顔を出して下さり、少しはおしゃべりで気分転換になっていれば良いのだけれど、と思っています。

毎年出場させて頂いている敬老の日のイベントの中、今家の中でひとりの時間を過ごされる方が多いことを耳にします。地域のふれあいセンターに教室を開いたのも、1人でも多くの人が、外に出てお茶を飲みながら、おしゃべりして、声を出して欲しいなあと思ったのがきっかけでした。

和泉市にある長女の家のリビングを借りて、月2回子供の教室も開いています。最初は3人から、今9人の年長さんから6年生まで、ワイワイ、キャッキヤと言いながら学校での出来事を教えてくれたり、近況報告ひとしきり。



毎年12月に和泉市で開催される「何でもありコンサート」に「詩吟ず」出場するべく頑張っています。

ある日生徒さんから、学校に行っていた頃は全然興味がなかった歴史が詩吟の背景では物語になって見える気がすると言ってもらえて、本当に師範になれて良かった！詩吟大好きで良かった！と心の中で大感激の私でした。

これからも、自身勉強しながら、生徒さん達と一緒に成長して行きたいと思います。

シリーズ 教室探訪コーナー

鷺恵会南ブロック西友支部芽ぶき分会

令和元年11月18日、阪和線熊取駅に広報部三人が待ち合わせ、鷺恵会福永洋恵さんの車に乗せていただき本日の探訪教場所の在る「熊取翠松苑いこいの家」に参りました。広々とした児童公園の中にあり清閑な雰囲気を感じられました。玄関を入ると、責任講師の柴谷鷺恵先生始め男性会員4名女性会員4名の皆様がとても暖かい眼差しでお迎えくださいました。

では早速本日のお稽古風景をお伝え致します。まず、発声練習ですが、あ行より2本、か行、さ行、た行と各々本数を上げて大きな声で発声練習をされ、続いて母音あ、い、う、え、お、を音階を付けて発声、そして母音での揺りを繰り返しされました。実践的なお稽古だなあと感じました。発声練習終了。

本日の講習吟題は「菊花・白居易」です。全員で素読をし、詩の意解を読まれ、字解、作者略伝を読まれました。

吟詠指導が始まり、鷺恵先生が2行ずつを詠われ、生徒さん達が続いて詠い、転句、結句と先生が詠われ、生徒さん達が詠い完了。え、早い……吟歴の浅い生徒さんもおられました、すらっと詠われたのには少し驚きました。次は男性4人が2本で、女性4人が6本で通して詠われました。



ここからがお稽古の本番、吟法の説明です。

「一夜」吟法4番③③③⑤の詩情表現について細やかな指導をされておられました。「新霜・しんそう」う、は、おで発音し、③ですが③③から少し伸ばし③③③と5番の吟法になると。〔○印は半音の表記です〕結句の「開いて」の吟法11番について生徒さんより質問があり、2段上げの上げる前の揺り方についてご指導をされました。

各々の自由課題練習が始まり、まず山脇鳴恵支部長が「寄家兄言志・廣瀬武夫」を朗朗と詠われました。さすがでした。岡田さんは「題壁・村松文三」を2本で、今津さんは「九月十三夜・上杉謙信」を1本で詠われました。入会されたばかりの重光さんは難しい「峨眉山月・李白」を詠われたのには少し驚きました。続いて女性陣の内藤さんは「雪梅・方岳」をしつとりと詠いあげられました。永井さんは秋の風情「新涼読書・菊池溪琴」を詩情豊かに聞かせてくださいました。郷上さんは来月に行われる関吟全国大会の為のお稽古として詠われました。竹山さんは暫く声出しをしていなかったのも本数を落として詠われていました。柴谷鷺恵先生に絶対的な信頼をされている教室だなあと感じました。

最後は鷺恵先生を真ん中に集合写真、はいチーズ

芽ぶき分会の皆様、たいへんお世話になりました。有難うございました。



記 佐川駿声

(訪問者)

広報部員 佐川駿声 長谷川岩郷 天田澄慈

青誠会・八鹿支部 つるぎ分会

令和元年10月20日（日）高速道路を乗り継ぎナビ頼りでマイカーを走らせて兵庫県養父市八鹿町にある青誠会八鹿支部つるぎ分会教室を訪問しました。

同支部の親師範講師である橋本誠鳳先生のご自宅にある同教室には、11月3日（日）に開催予定の八鹿文化祭に出演される他分会の皆さんも集合されました。ひとまず、日ごろのようにお稽古が始まりました。青誠会会歌、巻頭言唱和に続いて、発声練習をされました。



この度のお稽古は、先述の八鹿文化祭「音楽と芸能の玉手箱」（平成元年より毎年出演されている）での詩吟の構成出し物・吟詠歌謡「青葉の笛」「西郷隆盛」が中心でした。皆さん、気迫のこもった素晴らしい吟声で仕上げておられましたので、とても感心しました。



実は、この後、「座談会」が行われました。後述のように地域交流・他流派交流・競吟大会への出吟など積極的な取り組みをされている青誠会八鹿支部ですので、今回取材訪問の小生も参加しての「座談会」をしたいとのご要望を橋本先生から事前にいただいております。

- ①どうすれば、効果的な会員増強につなげることができるか？
- ②どのように発声等のトレーニングをすれば、コンクールでよい成績を得ることができるか？

誠に熱心な意見交換ができたようで、①については地道な現状の交流から詩吟PRを継続させていくこと ②については、小生から若干の工夫をご提案、熱心な皆さんのご質問にお答えしながら実践で参考にしていただくことで座談会のエピローグとなりました。皆様、ありがとうございました。最後に記念撮影です。



＜八鹿支部のご紹介＞（頂いた資料からの転載）
「仲良く、楽しく、元気よく」を合言葉に活動

つるぎ分会	講師	橋本誠鳳
小山分会	講師	川角誠庵
京口分会	講師	福井誠杜
和田山分会	講師	橋本誠鳳

◎地域イベントに参加

八鹿文化祭に出演（平成元年より毎年出演）

和田山文化祭に出演（平成25年より出演）

養父文化祭に出演（平成26年より出演）

八木城跡国史跡指定記念行事に出演

養父市シルバー人材センター式典アトラクションに出演

養父市高齢者福祉大会アトラクションに出演

※地域の皆さんとの交流を図り、詩吟のPRをしている。多くの方々に認知していただいているが、会員増加は今一つ

◎他流派との交流

朝来市親睦吟詠大会に参加（平成25年より参加）

吟道撰南流・吟道賀堂流・詩歌吟詠道鷺城

流・日本詩吟学友会・関西吟詩文化協会

養父市親睦吟詠大会

◎年に一度、年末に支部全体の錬声会を開いている

初段、2段は 絶句

3段以上は 律詩

◎競吟大会に出吟

多くの会員は「しらさぎ競吟大会」にエントリー

記 塩路澄誠

白さぎ地方の話題コーナー

〈ONE TEAM〉で取り組む 詩吟普及活動

青誠会八鹿支部 川角誠庵

11月3日、会場が暗転になり、前奏曲が流れるとステージにライトが当たります。第55回養父市八鹿町文化祭での青誠会八鹿支部の詩吟が始まりました。

毎年行われる市の主催する文化祭に参加するようになったのは、平成元年、第25回からだだったと記憶します。当時は八鹿に1分会しかなく、私たちは不安を持ちながらも、橋本先生の叱咤激励の中での初舞台だったのを、懐かしく思い出します。♪あれから30年。今では隣町の和田山分会もでき、4分会での活動ができるまでになりました。

▼今年も10月8日に「養父市高齢者福祉大会」に招かれ、八鹿支部全員で吟詠歌謡を演じ、600人参加された会場に歌声を響かせました。「詩吟の仲間を集めよう、1人でも2人でも」と、文化祭をはじめとして芸能祭、イベントへの参加と〈ONE TEAM〉になって、楽しみながら長年、歩んできた成果が今に至ったと思っています。

▼今年は吟詠歌謡に挑もうと、9月から合同練習、舞台練習と何度も練習を重ねてきました。毎月3回の分会での練習とは別に、夜7時半からの合同練習。「夕食時の一杯の楽しみ」をガマンしながら集まってくれるメンバー。疲れた身体を奮い立たせて駆けつけてくれる人たち。それはとても頼もしく素敵な仲間たちです。

▼演目は「青葉の笛」「西郷隆盛」。舞台上に漢詩をスライドで投映し、ナレーションもいれながらの演技でした。



多くの観客の方に「よかったわ、迫力があったわ!」と言っていただき、みんなとてもうれしく、熱い気持ちに包まれました。後の慰労会が盛り上がったのは言うまでもありません。

以上

機関紙のコーナー（ご紹介）

撮友会会報「葦」(歩み)

公認撮友会 企画広報部長 岳 野 恍 輔

「会報」の「葦」創刊号が発行されたのは、昭和41年5月で、西淀川支部（昭和18年4月撮友会に組織改革）創立7周年に発行され、情報・連絡が密になり、10周年～60周年「葦」特集号を特別発行する。

10周年「和」 会員大会と本大会の二日に分けて行う。

15周年「道」 会員大会、本大会に分けて行い、初めて構成吟「道」を披露する。

20周年「飛翔」 関西汽船「こはく丸」を借り切り、土曜の夕方大阪港を出航。姫路沖で停泊し、日曜日の朝、船内で記念式典を行う。

25周年「文化」 支部を「AからG」の七地区に分け、各地区で協賛大会を行い、本大会は箕面観光ホテルで行う。

30周年「あゆみ」 エキスポ「70」で、万博公園にある「万博ホール」で、構成吟（一部）「盛唐の星」、（二部）「あゆみ」を披露する。

35周年「昂」 「大阪ロイヤルホテル」で会員吟詠大会を行う。式典では「音」と「映像」で支部の35年間を振り返り、構成吟では全員で「昂」を合唱する。

40周年「はしら」 式典と構成吟を一部、祝賀会を二部として「ホテル阪急インターナショナル」で行う、構成吟「はしら」を披露する。

45周年「淀の流れ」 国際会議場「グランキューブ大阪」で開催する。構成吟「天の岩戸」を披露する。

50周年「改新」 「ホテル阪急インターナショナル」で開催。マルチビジョンによる画像・映像を使った斬新な企画で構成吟「大化の改新」を披露する。

55周年「伝承そして未来へ」 「ベイタワーホテル」で開催する。会員吟詠を各支部ごとの構成吟で発表。全支部とも俳句・和歌・新体詩・吟詠を取り入れた斬新的な会員吟詠を披露する。

60周年「極」 「太閤園」で開催。極則必反(きよくそくひつはん)「きわまれば すなはちかならず かえる」物事はきわまれば必ず元にかえる。還暦を迎える本大会のテーマを「極」とする。

会報「葦」創刊号～第57号（現在発行）



史跡探訪の旅

近江八景の神髄にふれて

律詩 近江八景。八つの美しい景色だけではなく、何か意味があるのではないかと思います訪ねました。

まず、天台寺門宗総本山「園城寺」(おんじょうじ)、通称三井寺(みいでら)の梵鐘を訪ねました。

三井寺はJRびわ湖大津駅から健脚で徒歩25分、タクシーでワンメーター。また京阪電車石山坂本線三井寺駅から徒歩10分。

「形の平等院」「銘の神護寺」とともに「音の三井寺」として日本三銘鐘の一つに数えられている三井の晩鐘。



三井の晩鐘

園城寺が三井寺と称される所以は、天智・天武・持統天皇の産湯に用いられた霊泉があったことから、「御井(みい)の寺」を「三井寺」と呼ばれるようになったそうです。

奈良時代の作と言われている初代梵鐘は、十世紀前半の頃、三上山(近江富士)に出た大ムカデを退治した田原藤太秀郷が、琵琶湖の龍神より頂いた鐘を三井寺に寄進されたと、お伽話のような伝説があります。

その梵鐘は後に延暦寺との戦により、武蔵坊弁慶が奪い、比叡山に引き摺りあげ、いざ鐘を撞いてみると、「イノー、イノー」と響いたそうです。弁慶は「そんなに三井寺に帰りたいのか……」と、鐘を谷底に投げ捨ててしまいます。現在もそのときの傷痕や破れ目などが残っています。

「イノー」と言うのは、イヌ(帰る)という関西弁で帰りたいという意です。

その後その初代梵鐘は撞かれること無く、現

在も三井寺を鎮護する「霊鐘」として、金堂西方の霊鐘堂に奉安されています。

鎌倉期の僧定円が読まれたとされる和歌も伝わっています。

・・・さざ浪や三井の古寺鐘はあれど
むかしにかへる音はきこへず・・・

現在の二代目梵鐘は1602年に豊臣家により三井寺復興事業として新しく作られました。また鐘の上部には百八個の乳といわれる突起があります。江戸時代に流行した百八乳を持つ鐘の、最古の作例と言われています。

三井寺の鐘にはもう一つの物語がありました。

除夜の鐘は百八つの煩惱の数を祓う意味で新年を迎える刻限に鐘を撞きます。

しかし三井寺の除夜の鐘は百八つ以上撞かれています。それには大きな意味がありました。

昔、湖畔で子供達にいじめられていた蛇を助けた事で縁が出来、助けた青年と化身となった大蛇との間に赤子が生まれました。しかし女人は大蛇の化身と知れると、赤子が無事に育つ願いに、自分の目玉を与え、姿を消しました。その噂が知れ、領主にさらわれてしまいます。そこへ大蛇がまたもや現れ、残りの眼玉の念力で、赤子を奪い返しました。盲目になった大蛇は「我が子の無事を、毎夕三井寺の鐘を撞いて知らせしてほしい、そして年末には無事に一年過ぎたとわかるように多くの鐘を撞いて下さい、そのお礼に人々に幸運を授けましょう」と頼んだ。

以来、三井寺では除夜の鐘に際して、龍の眼玉に囚んだ目玉餅を供え、できるだけ多くの人に百八に限らず沢山の鐘を撞いてもらう特別の儀式として、現在も行われています。

琵琶湖の神様「龍神」を慰め、人々に染みわたる梵鐘の音色にこのようなお話があったとは感動しました。

今日も無事に過ごせたと、毎夕刻に撞く三井の晩鐘、年の瀬に撞く感謝の「除夜の鐘」この意味を知って、三井の晩鐘が後生に受け継がれていくと確信しました。

現在の二代目三井の梵鐘も 重要文化財に



園城寺（三井寺）

なっています。

三井寺は西国三十三所観音霊場の第十四番札所でもあります。

次は京阪石山坂本線三井寺駅から石山寺行きに乗り換えて、27分で終点石山寺駅に着きました。徒歩十分で石山寺です。紛らわしいのが京阪石山駅と終点石山寺駅です、電車で5分ほど距離ですが少し距離がありました。

三井寺駅から石山寺駅の間に「粟津」という駅があります。そうです「粟津の晴嵐」です。今はなぎさ公園の名で整備されて、とても気持ちのいい浜辺です。

さあ石山寺に出掛けましょう。昨年10月の「白さぎ吟行会」で立ち寄った「石山の秋月」、石山寺です。

奈良の大仏建立に際して、黄金不足を聖武天皇から預かった聖徳太子の念持仏を石山寺の岩の上に置き、祈願するとお告げがあり、黄金が陸奥国で見つかり成就しました。念持仏を移動しようとしても念持仏が岩から離れず、そのまま岩の上に草庵を建て、寺院とした。これが石山寺の始まりと鷲尾龍華上人のお言葉でした。大きな石「珪灰石」の上に建つ石山寺は芸術家や文人には靈感授かると言われているそうです。

紫式部は石山寺で「源氏物語」を着想したと言われています。特に秋は2000本の紅葉と月が心を酔わせてくれます。石山寺三代座主は菅原道真の孫に当たる淳祐内供が石山寺中興の祖と言われていることも驚きでした。

石山寺をでて、瀬田の夕照「瀬田の唐橋」を渡り、湖東を進むと、「矢橋の帰帆」。

当時の夕暮れ時の美しい風景です。漁に出た帆掛け舟が遠方より戻ってくる景色を、歌川広重は絵図にして、現在は大阪市歴史博物館に保存されています。

琵琶湖大橋の湖西側に「堅田落雁」琵琶湖の



石山寺



浮御堂（堅田落雁）



唐崎神社（唐崎松間）



護り神「浮御堂」満月寺。平安期に恵心僧都源信が琵琶湖の湖上安全と衆生済度のため、湖中に仏閣を建立したとされています。

今も参拝が絶えず、風情があります。

浮御堂を背にして振り返ると、「比良暮雪」比良山系の山々が美しい姿で迎えてくれます。比良山と言う山はなく、蓬萊山などの山々の総称で関西のアルプスです。なだらかな山々の姿はまるで屏風絵のようで冬の比良山の雪景色が絶妙です。積もった雪が溶けて、琵琶湖を潤しています。

堅田から大津へ湖岸沿いに進むと唐崎神社があります。静まりかえった境内の中に、老いと戦う松の古木の姿がありました。

本来の姿を想像し難い現在の唐崎の松です。

今も凜々しい金沢の兼六園の松は、この「唐崎の松」の兄弟ですからこの地の子孫の松の成長を唯々祈るばかりです。

「他所から来られた詩吟の方々も、声高らかに吟声を響かせ、雄姿の復活を念じておられます」と、みたらし団子元祖の女将が仰せでした。昔ながらの手作りの団子とタレは絶品でした。

静かな湖面は「しばし待て……」と言っているような、時間が止まったかのような唐崎神社でした。

記 天田澄慈

第21回白鷺女性部吟詠大会を終えて

女性部長 加 藤 扇 郊

第21回白鷺女性部吟詠大会を、秋も深まり紅葉の美しい11月23日（祝）に太閤園に於きまして実施いたしました。

当日はとても良いお天気には恵まれましたが、数日前の厳しい寒さで体調を崩された方がおられ、255名の参加となりました。早朝より白鷺会長はじめご来賓の先生方には、ご多忙のところ枉げてご出席賜り誠に有り難うございました。

会員の皆様方も遠く広島、浜松、名古屋、豊岡、また関西地区の皆様が一同に会し、女性部大会らしく華々しく、明るく和やかな内に開催いたしました。

今年5月から新しい時代「令和」となり、今回の大会のテーマは「想」～平成から令和へと致しまして、平成を振り返って「想」を馳せ、詩吟を通じて未来令和への希望に繋げたく皆様に吟じて頂きました。



永年女性部を支えてくださいました第4代女性部長で顧問の曾根鷺夕先生が、10月17日にご逝去され、当日は遺影を飾らせて頂き、私たちを見守ってくださいました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



構成吟「天の雫」では総本部の安藤寿真先生に原作をお願いし素晴らしい舞台となりました。ナレーターや出演して下さいました先生方、音響を担当して下さいました先生方に厚く御礼申し上げます。また女性部役員、幹事の先生方には幾度となく御足労をおかけ致しまして無事開催することができました。有り難うございました。



「第52回白鷺連合会青年部吟詠大会～吟魂」を完走しました！

青年部部長 中 岡 蒼狼声

時は令和元年12月1日午前9時、大阪市内の四天王寺・造幣局といった名所旧跡から、あべのハルカス等の新名所を駆け巡ることで全国から多くのランナーが集う「2019大阪マラソン」がスタートしました。その鳴り響く号砲から遅れること1時間半後、「第52回白鷺連合会青年部吟詠大会～吟魂～」が開会したのです。

本年度大会の「スターター」（開会の辞）を、まだ入会後間もない真柴祥代さんが無事に勤め上げた後、「関西吟詩文化協会会歌」及び「白鷺連合会会歌」また「青年部部詩」といった一連の流れは円熟のランナー（部員）達が集団を先導。コースアウトすることなく順調に歩を進めました。（「青年部員紹介」では私の段取りが悪くコースアウトしつつも、部員皆さんからの自己紹介の一言一言が場を和ませてくれました。）

その後、前半戦最大の山場となります「白鷺連合会会員吟詠」について、今年は11組の会から出吟いただきました。また、遠方にも関わりませず出席いただいた「広島鷺夕会」「鷺照吟詠会」（岡山）の皆様、ありがとうございました。

会員皆様が一吟を終えたところでお待ちかねの給水ポイント（昼食休憩）にて、栄養補給を行ったのです。

レースは、米澤彦仁（ゲンジン）さんによる大合吟「富士山」による豪快なスタートダッシュで再開。続いて、恒例の「飛び入り吟詠のコーナー」は昨年に続き中島菖豊先生（哲菖会）、松尾佳恵先生より、今年は4名の方にワンポイントアドバイスをいただきました。皆様、緊張を押さえながらも懸命に吟ずる姿が強く印象に残りました。その後、「友好青年部来賓吟詠」、「関西吟詩来賓吟詠」において17名の先生方から御範吟を頂き、大会に花を添えていただきました。

いよいよレースも終盤（ゴール大阪城公園に向けて、今里筋を一路北上）、本年度青年部大会テーマの「吟魂」をテーマとした構成吟が始まります。構成吟と言えば当青年部で唯一無二の石本恍武副部長が「心意気」「教訓」「親（子）を思う心」「決意」をテーマに、古今東西の詩に込められる作者の想い、情熱という熱き心をテーマに描き上げ、部員一同が吟じました。

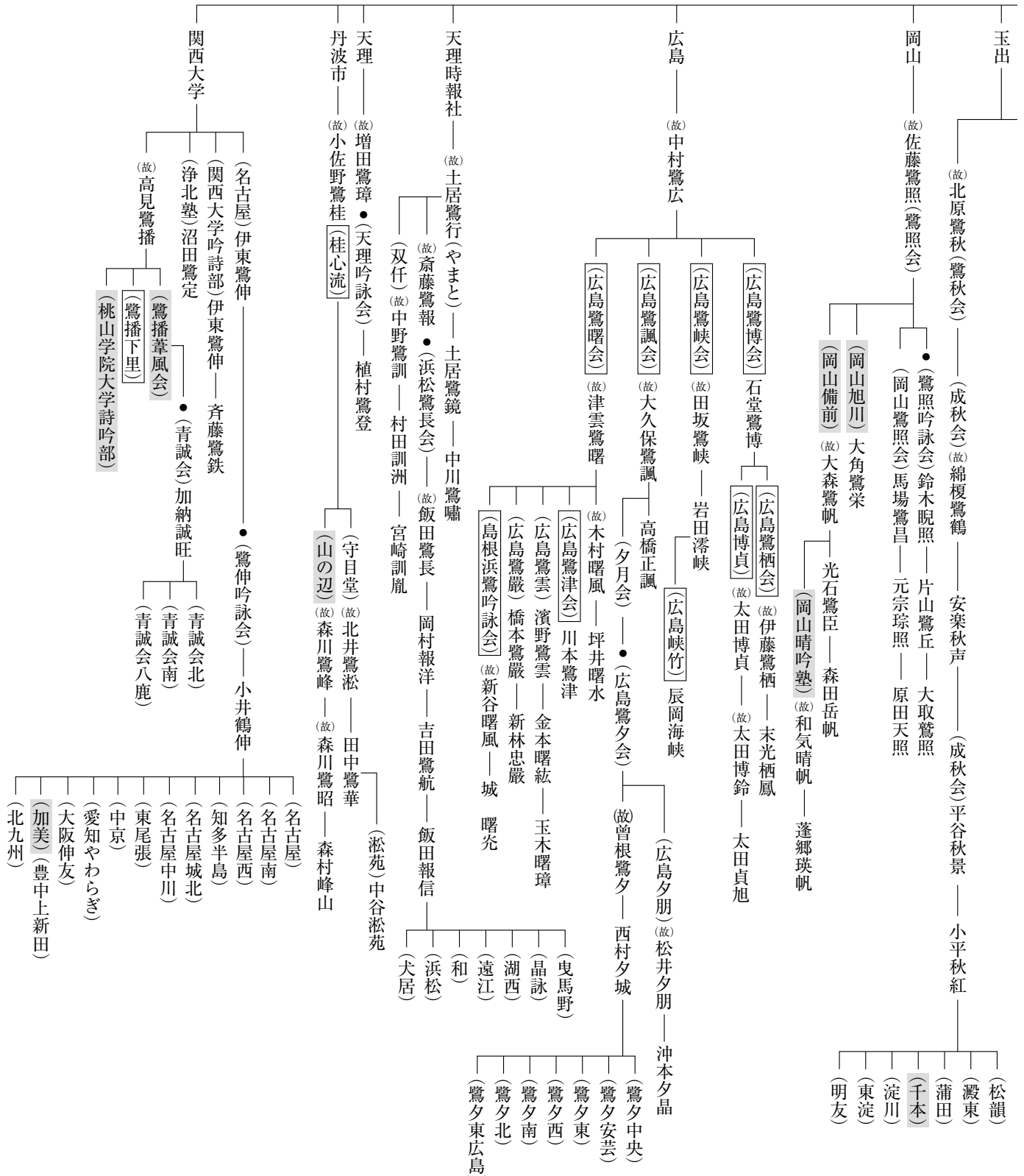
そして、構成吟の最後には吟ずる時の心構えを説いた「関西吟詩文化協会会歌」を最後に吟じ、レース中にコースアウトをしつつも皆でカバーし合い、当日参加頂いた皆様含め、参加者全員完走率100%で大会を終えることができました。（ちなみに2019大阪マラソンは完走率95.8%（32,989人）です。）

当日ご臨席賜りましたご来賓の先生方、白鷺連合会の諸先生方、各会会員の皆様、そして、来賓吟詠及び構成吟に演奏いただいた辻本公平先生（尺八）、本田一巳先生（琴）に於かれまして、心より青年部一同御礼申し上げます。また、来年皆様にお会いできることを楽しみに、一年励んで参ります。引き続き、青年部へのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

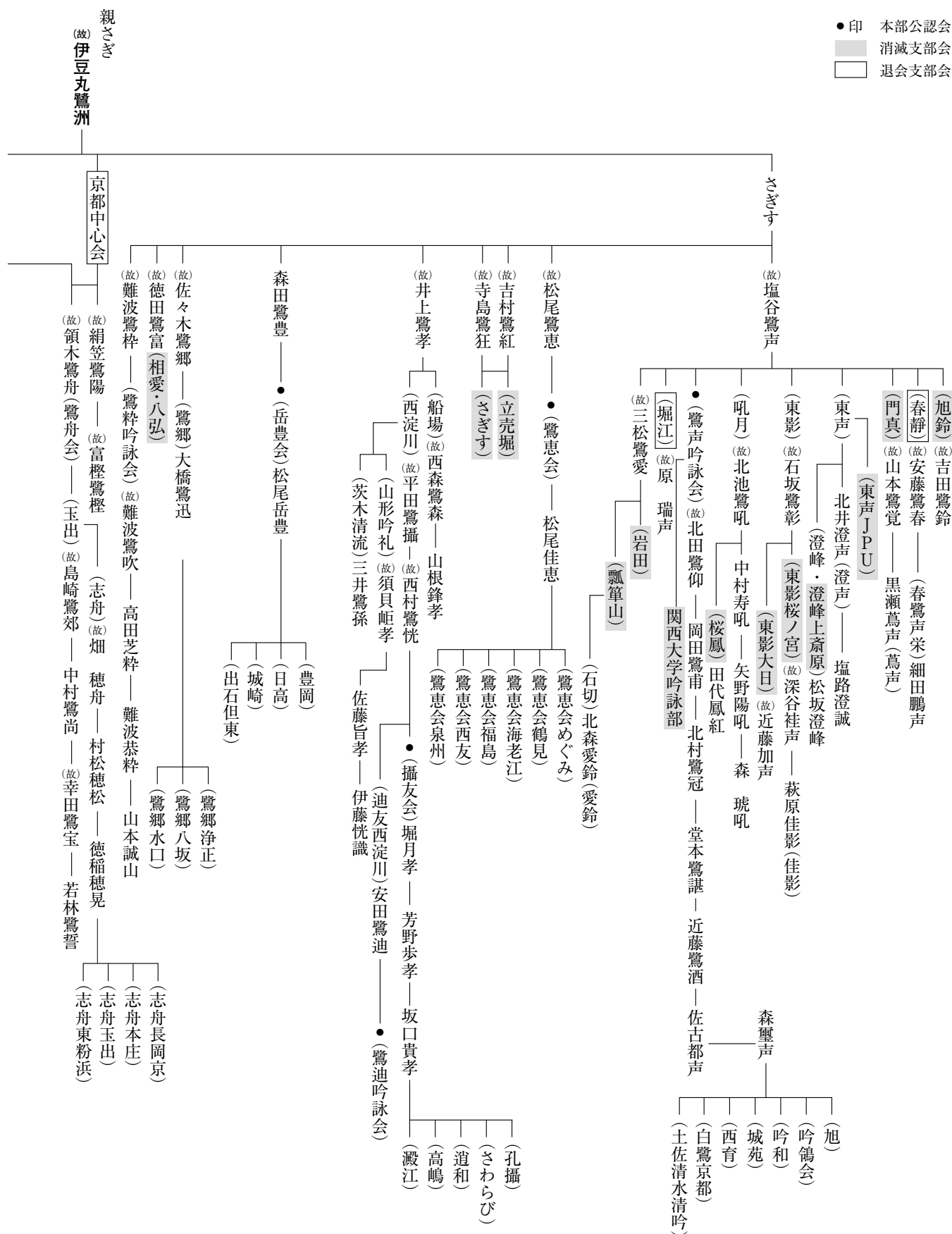


白鷺連合会組織系統一覽

(令和元年 12 月現在)



- 印 本部公認会
- 消滅支部会
- 退会支部会



楽しく・和やかに・一心向上
本年もよろしくお願ひします。
令和2年 元旦

[illegible]



長谷川岩郷 佐川駿声 福永洋恵 天田澄慈
岳野恍輔 塩路澄誠 表西鵬吼

編集後記

★2019年5月1日から新元号「令和」がスタートしました。令和元年から令和2年へ、あっという間でした。

さあ、これからの時代は、どのように展開していくのでしょうか、また展開させていくのでしょうか？

見通しが立てづらい時代かも知れませんが、新しいものにどんどんと挑戦していく時代であるかも。

★令和2年度は、東京オリンピック2020が開幕する年です。令和元年度最後に、いろんな準備をしなければなりません。

関西吟詩も白鷺も……そして吟詠界も新しい社会貢献をすること、公益事業を推進しながら「詩歌吟詠」並びに剣詩舞を世界に発信しましょう！

★わが白鷺連合会は、3年後には創立60周年を迎えます。今年度はメイン事業として「第5回白さぎ交流会」「白さぎ吟行会大阪大会IN大津」

を開催いたしました。新しい発想の転換を図り、内容を吟味して白さぎらしい新たな「魁」を展開したいものです。

★今年度の常任理事会で財務より提案のあった「会員減少による財政圧迫、根本的な意識改革が必要」との警鐘は、創立60周年に向けての備蓄のために、経費の削減策が提示され、見直しを図られています。令和2年度は、新しい展開を図る必要性がますます叫ばれる気がします。が、いろんな工夫を重ねてこれを乗り越えなければなりません。年々推移していく会員数の減少の歯止めは出来るのか？新入会員の増加の見通しは如何に？

成り行き任せでは済まないところに来ているかも……

みんなで知恵を絞りましょう☆

広報部長・塩路澄誠

行 事 予 定

(令和2年4月～令和3年3月)

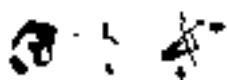
令和2年4月～12月

月	日	行 事 予 定
4	12	第59回白さぎ吟詠の集い競吟大会
5	2	白鷺連合会理事総会
5	31	総本部青年部大会
6	6	関吟定時総会
6	14	特別研修会兼推薦師範講習会・新教本研修会
6	21	関吟吟詠普及研修会（九州）
6	21	関吟昇格試験（地方）
7	19	関吟昇格試験（師範・準師範）
7	26	関吟昇格試験（師範代）
8	30	関吟吟詠普及研修会（岡山）
9	6	関吟本部研修会（師範昇格 課題詩）
9	13	関吟東明碑前祭・本部研修会（新教本研修）
10	18	関西吟詩全国吟詠大会
11	8	関吟全国新人中間層吟詠大会
11	22	関吟本部研修会（準師・師範代昇格 課題詩）
11		白鷺青年部大会（場所等未定）
11	23	白さぎ交流会
12	6	関吟全国師範代・準師範・指導者級吟士権大会

令和3年1月～3月

1	9	白鷺連合会新年互礼会（中止）
1	10	関吟新春吟詠大会（新年互礼会）
2	6～7	関吟吟道大学講座
2	14	関吟吟詠普及研修会（京滋・福井）





No.51

発行 2020年1月25日
発行所 公益財団法人 関西吟詩文化協会承認白鷺連合会
発行責任者 西村夕城
編集責任者 塩路澄誠

題字／西野楊郷